

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 2月 28日

事業所名 ハピリなの花

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6		3つの指導訓練室を、児童の遊びの内容に応じて使い分けている。	
	2	職員の配置数は適切である	3	3		送迎対応により職員の抜けが生じるため、もっと人員的な余裕がほしい。送迎の組み合わせなどを調整しながら余裕をうみだすよう工夫したい。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	5	1		階段があり、それが障害になっている方もいるかもしれない。建物の構造上、エレベーターなどが設置できないことを見学の際に承知いただいた上で、できる限りの対応努力をしている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6		現状に満足することなく、常に改善意識をもって業務にあたるよう心掛けている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	1		
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6		この評価結果については、集計した後にホームページに掲載する予定	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	3	外部評価は未実施。	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6		毎月、内部研修を実施している。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6		ICFの項目(心身機能、活動、参加、環境因子、個人因子)を参考にし、個々の全体像を捉えるよう努めている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	1		客観的な評価は行っていないが、作業療法の評価として、様々な遊び(作業)やADL、集団交流技能の評価を行っている。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6		ミーティングを行い、意見を出し合って毎日のプログラムを立てている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6		運動、遊戯、工作、音楽、散歩、調理などの多種多様なプログラムを取り入れて行っている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6		静と動のバランスを保ちながら生活リズムのある課題を設定している。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6			
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6		昼礼の中でその日の支援や役割分担について確認している。	支援開始前に全員でミーティングなどを設けることは難しいが、予定表などを通して連絡事項を確認し、情報を共有するよう心掛けている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6		支援計画にそって支援を行い、その反応や成果について振り返ることを基本としている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6			
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6		半年に1度、見直しを行っている。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	6				

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6			
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	6		情報共有をするとともに、ダブルチェックも行いながら、漏れがないようにしている。 必要に応じた情報共有を行っている	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	3	3	これまで、医師と直接のやりとりを行ったことはないが、保護者の方を通じて情報を聞き取るようにしている。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	6		移行支援会議に参加し、情報共有に努めている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	5	1	これまで機会はなかった。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	2		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	4	地域資源を活用し、まちなの一員として活動する機会を設けている。	姉妹事業所との交流はできているが、他の学童クラブなどの交流は実現していないので、積極的に取り入れていきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	2	4		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6			
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	5	1		ペアレントトレーニングと呼ぶにふさわしいか分からないが、児童の困りごとや課題について、送迎に保護者と共有し、一緒になって子どもを支える姿勢で関わるようにしている。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6			
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6			
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6		年に2回開催している。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6		改善すべき点は真摯に受け止め、取り入れる改善を図る努力をしている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6		通信を毎月発行している。	
	35	個人情報に十分注意している	6			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	3		招待はなかなか難しいが、散歩活動などの際には地域の方々に対して積極的に声をかけて関りの機会を持つようになっている。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6		保護者が出入りする指導訓練室に、常時設置し、閲覧できるようにしている。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6			全ての時間帯、場面を想定して訓練を行っているわけではないが、保護者の方が出入りする時間帯なども含め、様々な場面を想定して訓練を実施していきたい。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6		全児童を対象に、虐待に当てはまる行為が生じていないか職員間で意見交換を行っている	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6			
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6		保護者様に依頼し、年度替わりに、医師の指示書を更新している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6		重大な事故を防止する観点で、小さなことも共有し、対策している。	